

ぼく  
おばあちゃん  
だいすき



「おばあちゃん、ただいま！」

「おかえり、しんちゃん」

「おばあちゃん、きょう、がっこうに、車いすにのった人がきて、みんなのまえでおはなししてくれたよ。車いすの人はさかみちとか、かいだんはじぶんでのぼれない人がいるんだって。だからだれかにおねがいして、てつだってもらって。ぼくは、あるけるし、かいだんだってすいすいのぼれるけど、じぶんでできないって、すごくこまるよね。」

「ほんとうにそうだね。車いすの人も手のわるい人もこまること、たくさんあるんだよ。でもね、車いすの人みんなが手つだってもらうとちがうよ。じぶんでできることはじぶんでがんばってやっている人がいるよ。おばあちゃんは手がわるいけど、できることはじぶんでがんばってだよ。」

「うん、車いすの人もそういていた。じぶんでできることは、じぶんでがんばってやっているって。それから、手つだうときは『手伝いましょうか？』ってこえをかけてくださいって』言っていたよ。」

「とつぜん、うしろからおしてあげるのは、あぶないよ。しんちゃん、できるお手つだいをしてあげたらいいね。」

「うん。そうだ！おばあちゃんはなにをしてほしい？、ぼくあんまり手つだってあげなかったね」

「う〜〜ん、そうだねえ、おばあちゃんは手がわるいからぞうきんがうまくしぼれないので、これからはしんちゃんにたのもうかなあ。」

「うん！いつでもいって。おばあちゃん。車いすの人を「しんたいしょうがいしゃ（身体障害者）」って呼んでいたけど、からだのどこかわるい人のことだよ。おばあちゃんもそう？。そういう人おおぜいいる？」

「おおぜいいるよ、車いすの人、目の見えない人、耳のきこえない人、しんぞうのわるい人、手や足のわるい人たちのことを（しんたいしょうがいしゃ）って言うんだよ。  
おばあちゃんは「とよはししんたいしょうがいしゃ（じ）ふくしだんたいれんごうかい」（豊橋身体障害者（児）福祉団体連合会）という、なが～いなまえのかいに、はいっているよ。ながいから「ほうしんれん」（豊身連）というんだよ。みんななかまだよ。」

「そうかあ、いつもおばあちゃんに「ほうしんれん」「ほうしんれん」って、でんわがかかってくるのはともだちなんだ。  
それで、たのしそくにはなしているんだ。」

「そうだよ。みんななかまで、たのしくちいぐたいかいや、りょこうや、おまつりをするんだよ。  
いつもあう人、ひさしぶりにあう人もいてまたまたたのしみなんだ。しんちゃんもくる？。目の見えない人、しんぞうのわるい人、手や足のわるい人、車いすの人。そしておばあちゃんのおともだちいろいろな人とはなしてほしいなあ。」

「いくいく。でもいってもいい？」

「もちろん！いいよ。こんどいっしょにいこうね」

「うん。いくいく。おばあちゃんのかばんもってあげるよ。  
それから、こんど「ほうしんれん」からでんわがあったら『おばあちゃんをよろしく』ってあいさつするよ。」  
「ほお～！。きょう一日で、すこしおとなになったね。しんちゃん。  
ほ、ほ、ほ。」

お・わ・り

おばあちゃんも しんちゃん だいすき・・・だよ。